

中学校ベースボール型授業における下位児に関する研究 —教師の相互作用行動に着目して—

発表者 林 純也
指導教員 大津 展子

キーワード：中学校、ベースボール型、下位児、相互作用行動

1. 緒言

現在の学校体育では、生涯にわたり運動・スポーツに親しむ資質・態度を育むことが目指されているが、依然として「体力・運動能力の低下」や「運動する子供としない子供の二極化」が指摘されている。また、中央教育審議会の答申(2008)で「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていない例もみられる」と教師に関する課題が指摘された。そこで、教師の下位児に対する効果的な関わり方について検討することは意義があると考えられる。

これまで、細越(2003)や福島ら(1999)など教師の下位児への関わり方についての研究は行われてきた。細越(2003)によれば、教師は主に運動学習に関わる内容を下位児に提供し、運動学習において適切な関わりをした時に下位児の成果は高まり、また技能的な達成感が得られた時に学習者の反応も積極的になることが確かめられている。しかし、これらの先行研究では小学生の「器械運動」や「陸上競技」の授業を対象としており、中学校ベースボール型授業における下位児への関わり方についての研究はまだ明らかにされていない。

そこで、本研究は運動する子供としない子供の二極化の傾向が大きくなっていく(特に女子は二極化の傾向が顕著)中学生を対象とした。また、球技の中の特にルールや戦術が複雑であり、ゲームを楽しむために打つ、捕る、走るなど幅広い技能が必要とされることから授業を展開するのが難しいとされる「ベースボール型」の授業において、教師の技能的な相互作用行動とそれに対する生徒の受け止め方から、下位児に対する効果的な関わり方について明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

2-1 単元計画

本研究では、球技「ベースボール型」の授業を対象とした。この単元は、全10時間単元となっており、ベースカバの動きを身につけたり、守備隊形を工夫したりするなど守備の動き方を身につけさせることから、ベースボール型の授業を理解することを目的とした。

2-2 実験授業の実施の時期と対象

本研究は、I県S市Y中学校の1・2年生4クラスで、男子生徒46名と女子生徒44名(うち下位児男子生徒6名と女子生徒9名)を対象に、平成27年10月下旬～12月中旬に行われた。下位児の基準としては、授業担当者により成績や体育授業の様子から運動技能が高くない生徒を設定した。授業者は、教員歴小学校6年・中学校10年の40代のベテラン男性教師であった。

2-3 データ収集の項目

1) 質問紙調査法

毎時間授業後に生徒の授業における成果の変容

を調査するために、高橋ら(1994)によって作成された形成的授業評価票を用いて、授業終了直後に授業に参加した全ての生徒にアンケートを実施した。加えて、教師の助言に対する下位児の受け止め方を調査するためのアンケートも行った。

2) 観察法

実際に教師の生徒への関わり方について調査するために、ビデオカメラを用いて教師の指導行動と言葉かけがわかるように、教師を中心に撮影を行った。その際、教師にはワイヤレスマイクを装着してもらい、教師の音声収録されるようにした。

2-4 データ処理

1) 教師の相互作用行動

運動学習場面における下位児に対して関わっている場面のみを抽出し、高橋ら(2003)の教師行動の分類を参考にして分類した。そこから、単元を通して各項目の割合について検討した。

2) 形成的授業評価

調査表の各項目の回答に、「はい」に3点、「どちらでもない」に2点、「いいえ」に1点を与え統計処理を行った。また、それらをクラス全体と下位児に分けて、成果の変容を検討した。

3) 教師の助言に対する下位児の受け止め方

授業終了後に下位児を対象に調査を行い、①助言の有無②助言の有効性③助言の内容の設問に回答させた。それから、助言の有無とその有効性の割合を調査した。さらに、有効性が見られた助言について、その内容について実際の授業場面における教師の助言と照合し、高橋ら(1997)の教師の助言に対する子供の記述内容と有効性の意義の分類方法を参考に検討した。

3. 結果と考察

3-1 教師の相互作用行動

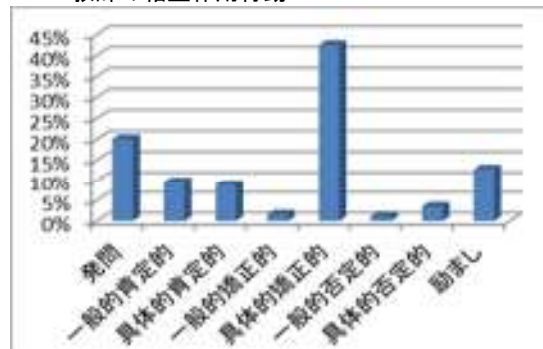


図1 教師の相互作用行動の割合

まず、図1で示した教師の相互作用行動の割合について見ていく。教師の相互作用行動として高橋ら(1989)によれば「肯定的フィードバック」「修正的フィードバック」「励まし」は生徒の学習意欲

を高め、授業の雰囲気良くし、授業評価にプラスに影響するが、逆に「否定的フィードバック」は授業評価にマイナスに作用することが分かっている。その中で下位児を対象とした本単元においては、「矯正のフィードバック」が44%、「肯定的フィードバック」が19%、「励まし」が13%と多く、「否定的フィードバック」が4%と少なかった。このことから、下位児にとって運動学習にかかわって賞賛や言葉かけなどを多く与えたり、たとえ失敗しても温かく迎え入れたりするような教師の働きかけがなされており、下位児の学習成果に対して肯定的な影響を及ぼしたと考えられる。

3-2 形成的授業評価

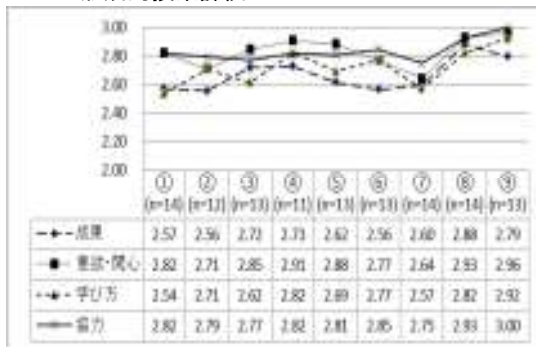


図2 下位児の形成的授業評価の推移

次に、下位児の学習成果に対して本当に肯定的な影響を及ぼしたのかどうかを検討した下位児の形成的授業評価の結果を見ていく。通常、体育の授業では運動の課題達成が難しい場合や、全ての生徒が積極的に学習に参加できないような場合においては下位児の評価が高まらないのが一般的である。しかし、図2を見てみると単元を通して、終盤になるにつれて4観点とも上昇傾向にあることが分かった。また、4観点の「総合」の数値が単元全体で2.77以上になったことから、授業の評価次元が5となり、下位児にとって大変評価の高かった授業といえる。このことから、本授業は下位児の学習成果に対して肯定的な影響を及ぼしたと考えられる。

3-3 教師の助言に対する下位児の受け止め方

表1 役に立ったと答えた助言の内容の例

No	名前	実際の授業場面での教師の助言
2	Bさん	打撃時において、なかなかバットにボールが当たらないBに対し、「ボールってこういう風になってるでしょ。」「高くなってる時を狙って打つ。」とボールの軌道を示しながら具体的矯正の助言。
7	Gさん	守備時において、ボールを上からつかみに行ったGに対し、「ゴロ捕るときね、手をこうじゃなくて手のひらをこう向けてごらん。」と動きを示しながら、具体的矯正の助言。

最後に、教師の助言に対する下位児の受け止め

方の結果を見ていくと、助言の有無については「助言を受けた」と意識した者の割合が24%、「助言を受けていない」と意識した者の割合が76%の結果が出たことから教師の言葉かけとしてはやや不十分であったといえるだろう。しかし、助言を受けたと答えた者の中で「役に立った」と答えた者は83%と高い割合を示したことから非常に的確な助言が行われていたといえる。また、「役に立った」と答えた回答の内容を、表1のように実際の教師の助言と照合し検討した結果、その約60%が「技能的学習に関する助言」であったことから、先行研究で示された教師の技能的な関わりが、下位児の技能向上にプラスに影響を与えることを示した結果を追認するものといえるだろう。

4. 摘要

本研究の結果から、中学生を対象としたベースボール型授業において、教師が下位児に対して「賞賛」、「助言」、「励まし」などの相互作用行動を多く取り入れた雰囲気の良い授業の中で、特に「技能的な関わり」を持つことによって下位児に対して効果的な関わりが行えると考えられる。

また、下位児対応については、さらに多角的な視点から検討する必要がある。教材と下位児の関係、仲間と下位児の関係、認知的・態度的視点からの教師の下位児への関わり方などさらに多くの検討を行うことが今後の課題といえる。

5. 引用参考文献

- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編(2008.7), 文部科学省
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書(2015.12), 文部科学省
- ・ 幼稚園小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(2008.1), 文部科学省
- ・ 細越 淳二(2003), 運動技能水準下位児に対する教師の関わりについての事例的分析 国士館大学文学部人文学会紀要 (36), pp.188-176
- ・ 福島 祐子, 高橋 健夫, 深見 英一郎(1999), 子供の学習行動と教師の関わりについての検討: 特に技能水準下位児を対象として, 日本体育学会大会号 (50), p.782
- ・ 高橋健夫, 岡沢祥訓, 中井隆司(1989), 教師の相互作用行動が児童の学習行動及び授業成果に及ぼす影響について 体育学研究, 第34巻(3) pp.191-200
- ・ 高橋健夫, 吉野聡, 深見英一郎, 歌川好男, 日野克博, 清水茂幸(1996), 教師の相互作用及びその表現の仕方が形成的授業評価に及ぼす影響, スポーツ教育学研究, 第16巻(1), pp.13-23
- ・ 深見英一郎・高橋健夫・日野克博・吉野聡(1997), 体育授業における有効なフィードバック行動に関する検討: 特に子供の受け止め方や授業評価との関係を中心に, 日本体育学会, 体育学研究, 42(3) pp.167-179
- ・ 高橋健夫(2003), 体育授業を観察評価する: 授業改善のためのオーセンティックアセスメント, 明和出版, pp. 12-15, 49-56